

# ビワ生育情報

千葉県  
平成19年12月号

## 平成19年11月の気象

平成19年11月の半旬別気象は表1に示した。平均気温は第1及び第3半旬を除く全ての半旬で平年を下回った。月平均気温は12.6 で、平年より0.7 、前年より1.1 低かった。

降水量は第2半旬を除く全ての半旬で平年を下回り、第3及び第5半旬には降雨がなかった。月合計は58mmで平年の37%、前年の29%であった。

日照時間は第3～第5半旬を除く全ての半旬で平年を下回り、月合計は140時間で平年の97%、前年の96%であった。

表1 平成19年11月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	気温( )			降水量(mm)			日照時間(時間)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	15.4	15.4	16.0	12	24	7	21	24	26
2	14.4	14.8	16.6	34	34	16	13	24	39
3	14.9	13.9	14.4	0	22	15	43	23	26
4	11.1	12.7	11.5	5	24	102	25	23	16
5	9.1	11.9	10.6	0	23	24	36	24	28
6	10.4	11.4	13.0	8	30	36	3	25	12
平均/計	12.6	13.3	13.7	58	158	200	140	144	146

## 1月の作業 (花房の発育は次ページ)

ビワは、厳寒期に入り枝葉の伸長及び根の活動は停滞しているが、開花は引き続き進行し、幼果はわずかながら肥大している。本年は開花の進みが早く、寒害には注意が必要である。1月は春からの本格的な肥大にそなえての追肥時期である。

### 苗木の植え付け

ビワは他の果樹より定植時期が早いので、植え付けの準備も早めにしておく。ビワの苗木の植え付けは2月中下旬が適期となる。ビワの根は3月上旬から動き始めるので、その前に定植を終えるようにする。

### 寒害対策

ビワの幼果は、-3 以下の低温に遭遇すると、胚(種子)が凍死し、成長が止まり落果してしまう。蕾あるいは開花中の花は寒害を受けにくいですが、受精後は幼果の発育が進むにつれて凍死しやすくなる。本年の開花の進みは平年より早く(表3)、特に開花が終了する1月中旬頃から寒害対策が必要となってくる。

ビワの寒害は大陸性高気圧のもたらす寒波によって引き起こされる。本格的な寒波は1月中旬から3月上旬の間に数回襲来する。この時には、ビワ園を防寒して寒害を回避する必要がある。幼木園では、こも等の被覆資材で樹体を覆う方法、あるいは枝どうしを結束する方法が効果的である。成木園では、園内をヒーターで加温して寒害を防止する。火点設置場所の整備と火点及び燃料の準備をしておく。

## 施肥

果実の肥大及び春の発芽伸長のための春肥は、追肥ないしは実肥と呼ばれ、1月中に施用する。ビワの根は冬期もわずかながら伸長しており、2月下旬には活発になる。春肥はこの時期に合わせて早めに施すのが一般的で、年間施肥量の30%程度を施用する。時期別の標準施肥量は表2に示した。

表2 ビワの時期別標準施肥量 (成分量 kg/10a)

時 期	耕土の浅い園			耕土の深い園		
	窒素	りん酸	加里	窒素	りん酸	加里
9月上旬(基肥)	12	9	9	11	9	7
1月中旬(春肥)	10	9	5	7	8	3
6月上旬(夏肥)	5	4	4	5	3	3
合 計	27	22	18	23	20	13

(千葉県主要農作物等施肥基準より)

### 使用上の留意事項

1. 土壌pHは6.0～6.5に矯正する。
2. 苦土石灰は1月または9月施肥の2週間前に施用し、その後耕うんする。
3. 施肥後は軽く耕うんする。ただし、夏肥施用後は、その必要はない。
4. 有機物は積極的に投入する。有機物の深層施用には必ず完熟堆肥を用いる。

## 樹及び花房の発育

ビワの開花期は表3に示した。暖地園研の開花始期は、「楠」が11月7日、「大房」が11月25日、「田中」が11月11日で、「楠」及び「田中」は平年より3日早かったが、前年より4日及び1日遅かった。「大房」は平年と同じであったが、前年より1日遅かった。

開花盛期は「楠」が11月24日で、平年より6日早かったが、前年より4日遅かった。12月3日現在「大房」及び「田中」は開花盛期に至っておらず、「楠」は開花が終了していない。

本年は10～11月の気温が平年よりやや低かったが、花房の出蕾が3品種共に平年より早く、開花の進みはいずれの品種も平年よりやや早いと同程度である。花房は充実していて樹の生育も良好である。

表3 ビワの開花期 (暖地園芸研究所)

品 種	開花始期(月.日)			開 花 盛 期			開 花 終 期		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
楠	11. 7	11.10	11. 3	11.24	11.30	11.20	-	1. 2	1.25
大 房	11.25	11.25	11.24	-	12.22	12.18	-	1.30	2.25
田 中	11.11	11.14	11.10	-	12. 9	12. 5	-	1.16	2.13

平年：1982年～2006年の25年間の平均

【生育情報の問合せ先：千葉県農業総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹研究室 電話0470-22-2961】

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>